



貴方は 真のロータリアンです それとも 単なるロータリー会

『桃李言わざれども 下自ずから蹊を成す』と漢の時代の諺があります。桃や李の樹は美しく花を咲かせ、美味しい実をつける。随ってその下には自然に道が出来る。と同様に徳のある人の下には人が慕い寄ってくる。

と申されます如く、ロータリークラブは創立以来魅力ある世界的な組織に発展してまいりましたが、創立100周年を前にして一条のかげりがちらほらと見えてきたように思います。

そこで従来路線の延長のみでは未来は拓けないとの危機感があり、今こそ改進黨を進まなければロータリーは……？と苦言を呈する人すら現れて来ている状態であります。2002年の終りに皆さんロータリークラブを今一度しっかりと見つめ直そうではありませんか。

元ロータリアンの中央大学名誉教授小堀憲助氏はロータリークラブの核心について述べられています。

アメリカではロータリークラブは慈善団体ではなく社交クラブの一つとして思われています。1905年ポールハリスが3人の友人と混迷している世の中で感情的な淋しさを紛わす為に集まり、お互いに心を癒し合おうと始め、お互いの心の潤滑油の役目となったのであります。そして基本的な特質の二つを確立しました。

ロータリークラブとは親睦を中心とした人間形成・・・気配りと世話を
欠かせない愛情と信頼の社交クラブである。

その一つが例会における心の開発。ひたすら心を磨き、心に愛の火がともったロータリアンが奉仕を實踐していく。その為には例会に規則的に出席することです。



か 員ですか

国際ロータリー 第2650地区
2002～2003年度 ガバナー 岡村 吾郎

職業分類の原則で一業種一会員制で選ばれた良質な人でなければなら
ない。

二つ目はこの上述のもとに良質な人達が集まり、優秀な思想が生まれ、そして友情、親睦による人
間形成の場と結論づけられたのであります。

この二つの特質のもとに、ロータリークラブは本質をさらに充実して活動に移り、職業、社会奉仕
へと発展し、ロータリークラブの基礎を確立したのであります。

職業人にとっては、職業奉仕は商道であり、お互いの儲けの背後には
尊敬と信頼が必要であり、良質の商売でなければならない。

以上の信念で培ってきたロータリークラブも時代の流れと共に変遷してゆくのですが、先輩の
方々が確立したロータリーの基本原則を忘れない様に。そして倫理的に考えることを！！

ロータリークラブは考える団体であったが、現在は勘定する団体に変
わってきた。

私達ロータリアンは、ロータリークラブの基本的原則に戻り、魅力あるロータリークラブを維持し
なければならないと考えます。

[註] 7月1日ガバナーに就任し、93クラブの公式訪問を終えようとしている私の思いです。



ロータリアンの手引き「手続要覧」

地区規定審議委員会 委員長 山室 義郎（舞鶴RC）



「手続要覧」は3年ごとにR I 規定審議会が開催された年度に出版され、年次国際大会、規定審議会、R I 理事会、ロータリー財団管理委員会が採択した方針と手続きが記載されており、またR I 定款と細則、標準ロータリークラブ定款、推奨クラブ細則、ロータリー財団定款及び細則の最新版が織り込まれております。

2001年版は特に読みやすく、理解しやすくなりました。それは98年版の記載の重複をさけ、まとめ直され、さらに明確さを期して編集されております。「手続要覧」はロータリーに関する基礎的事項を解説したもので、ロータリー活動の上で疑問をもち、判断に迷う事柄等については辞書的な利用をしていただければと考えています。なお、組織規定および他の規約文書を含む、手続要覧の意味、解釈について疑義が生じた場合、これらの規定事項に関して英語版が正文となります。

この度の規定の改正については、例会出席のほか特に職業分類については大幅に緩和されロータリーの基盤といわれる一業種一会員が大きく変わり「同一職業の会員を5名まで認める」とすることです。岡村ガバナーは、「無理に5名まで同業会員を増やすことではなく職業分類の原則に帰り、各クラブが和を保つことを第一に考え、自律の基準を設定して対処することにある。」という考えをもっておられるようです。

今やクラブ運営は自主性を問われる時代に入ったとも言われています。標準ロータリークラブ定款には「理事会の承認」とか「理事会が十分な理由があると認めない限り」と明記されておりクラブ規定に基づいて的確な判断が理事会に委ねられることになると考えられます。カルロ・ラビッツァ前会長は「ロータリーはますます複雑化し硬直化する規則体系でもって自らを包み込んできた。もう一度クラブを信頼し、クラブが独自で決定を下せる機会を与える時期がやってきた」とロータリーの簡素化を発言されました。

次に新しい「手続要覧」は2004年開催されます規定審議会の終わった年度に出版されます。規定審議会には各クラブ、地区大会、R I 理事会等から提出された立法案を世界全地区の代表議員によって検討、協議され決議されます。この大会には今のR I 定款、細則または標準ロータリークラブ定款を改正する意図をもつ提案（制定案）とロータリーについての意見を表明したり、方針や手続きを推奨したりする提案（決議案）を各クラブからも上程することができます。その提出期限は2003年6月30日までにR I 事務総長宛てに提出しなければなりません。

そこで当地区の取り組みとしてすでに各クラブにご案内しているとおり12月15日に締め切り、中野諮問委員、宮崎代表議員、岡村ガバナーの指示により地区大会に上程し採択を得てR I に提出する手続きをとることにしております。

規定審議会等についても「手続要覧」にわかりやすく書いてあります。またそのほかロータリー運営の基本についてもすべて盛り込まれており権威ある資料源といわれています。

変貌するロータリーに対応を

ロータリー理解推進月間に因んで

ロータリー情報委員会 委員長 瀬上 勝夫（勝山RC）



世の中はあらゆる分野において激しい変貌をとげつつあり、それにともない1997年から始まった会員減少が引きがねとなり、手続要覧の内容が根本的に変わりつつあります。ロータリーも社会の変化をにらみ、知識と理解を深めながら目的に向かって邁進しなければなりません。

職業分類の改正、会員規定の簡素化、例会とメーキャップの緩和など、そしてIT革命による情報伝達等々、ロータリーの過去の基本を揺るがすことが起こりつつあります。

過去にロータリー教とたとえられた厳しい規定も、過去の美学として失われつつあるのが現状であります。

然しそれも温故知新、新世代のロータリーとして、理解と推進を図らねばなりません。

ロータリー情報委員会としては、係るロータリーの変貌に如何に対応していくか、会員にロータリーの目的、歴史、活動内容、特典義務を定款、細則を通じてどう提供すべきかを考えなければなりません。クラブにおいても、情報集会を通じて奥深いロータリー精神を会得すべく努力し、ロータリーの最高目標である「超我の奉仕」に向かって魅力あるものとすべく、活動を通じ実践しなければなりません。新会員に対しても“鉄は熱いうちに打て!!”の諺の如く、入会に際し、また入会后直ちに情報活動を行うべきであります。おろそかにした結果が会員の退会に繋り、規約の緩和となるのであります。厳しいことが魅力か、緩めることが魅力か、検討すべき問題と思えます。

本年、当委員会で作成しました「新会員へのオリエンテーション」と題し冊子を作成しましたが、是非有意義に使っていただきたいものです。

新会員は勿論、会員全般にロータリー情報を充実し、自信と強さが滲み、謙虚さを持つ素晴らしい資質を備えたロータリアンの更なる実現に努力したい所存です。

この冊子は、国際ロータリー第2650地区ロータリー情報委員長協議会で各クラブ委員長のご意見を基に更に見やすく、解りやすくカットまんがを挿入して編集したものです。「新会員へのオリエンテーション」に是非有意義に使って下さることをお願いします。

なお、インターネットで2650地区ホームページ (ID:rid2650 Password:d2650gov) でダウンロードしていただいでご使用いただいで結構です。

A 4 版 2 色 25 頁





創立50周年記念の集いを終えて

彦根ロータリークラブ 幹事 片岡 哲司

2002年10月26日、彦根ロータリークラブは創立50周年記念の集いを開催しました。

岡村吾郎ガバナーはじめ、パストガバナーの皆様および県内各クラブ会長の皆様、また遠く第2670地区パストガバナー三宅洋三様、姉妹クラブ高松RC鈴木会長および会員22名様にも錦上花を添えていただきました。ありがとうございました。

50周年を迎えるにあたり、奥野文雄実行委員長提唱のキーワード「楽しいスマートな50周年を迎えよう」をモットーに、それぞれの部会において約1年間熱心な討議がなされました。

その結果、事業企画部会では、環境にスポットをあて、その具体的な取り組みとして、彦根市民へのアンケート調査をもとに「環境保全4つのテスト」を作成。彦根市役所をはじめ、公民館や市内小・中学校24校等35ヶ所にパネルを設置。また、市内商工業1700の事業所に、ステッカーを配布して、啓蒙につとめました。一方、市内の各年齢層より環境問題についての作品（ポスター・絵画・作文・論文）を募集。約680点余の作品の応募があり、市民の関心の深さを改めて痛感した次第です。最優秀作品については、「50周年記念の集い」の席上で表彰をさせていただきました。事業の最後には、市内小学6年生全員を対象として「宇宙飛行士 若田光一氏」の環境講演会を開催し、子供達にこのかけがえのない地球の環境保全と将来への夢と希望をもってもらうため、大宇宙から見た地球の写真、ビデオを使って1時間半、話をしていただき、質疑応答もあり、参加者1500名が大いに盛り上がりました。



式典部会は、「50周年の集い」と銘打って、参加者に印象に残る会とすべく努力をしていただき、ご来賓はじめ、メンバー、ご夫人参加が、楽しくスマートに50周年を楽しんでいただけたと自負しております。

記念誌部会は、記念誌をCDとして作成し、12月中旬の発行を目指してがんばっております。また、総合調整、その他すべてにきめ細かい配慮をしてくれた総務部会の活動は見逃すことは出来ません。



大野ロータリークラブ創立40周年記念事業

大野ロータリークラブ 幹事 野村 重一郎

大野ロータリークラブは昭和38年6月26日に福井ロータリークラブと勝山ロータリークラブをスポンサークラブとしてチャーターメンバー24名にて発足致しました。地域の皆様とロータリーの友人の皆様に支えられて40周年を迎えることができました。

「地域に根ざした活動」を重点目標に掲げ記念事業を模索致しました。

「いま子供たちのためにできること」は何かと考えたとき、親や学校ばかりではなくロータリアンはじめ地域で活動する個人や団体が市民の意見に耳を傾け、大野の子供たちについて共通の認識をはぐくむことが必要との点で一致しました。そこで子育て事業として大野市教育委員会のご助言、ご支援のもと、以下の二つのプログラムの事業を企画させていただきました。

記念事業プログラム [実施期間2002年10月28日～2003年6月30日]

1. 「ようこそロータリアンの職場へ」

これからの子供たちが社会の荒波に自らの力で生き抜いていく資質や能力を育てていくためには、学校教育はもちろんの事、家庭や特に地域社会での豊かな生活体験が大切だと考えます。学校週五日制・・・土曜日の過ごし方・・・休日の過ごし方が大きな課題だと思われます。そこで市内の小中学校区に、何時でも子供たちの活動が支援できる事業をスタート致したい。幸いにも私達大野ロータリークラブ会員50名はそれぞれの業種で活躍致しております。その経験子供たちの活動の中に活かして頂きたいと思ひます。自然体験、社会体験、生活体験等の場を提供する事、この事はロータリーに示された課題として受けとめ、地域に生かされているロータリアンが教育の力としてその輪を広げたいと望んでおります。

2. 「ようこそ先輩」「ようこそロータリアン」

地域の第一線で活躍中のロータリアンが市内の小中学校を訪問して、“教科書もルールもない授業”から自分を愛し思いやる心・・・家族を愛し思いやる心・・・を伝え、そのバックボーンから命の尊さ、自然のすばらしさ、みんな力を合わせることの大切さなどを体験学習や変わった宿題などを通して、子供たちに伝授できるような心の教育を望んでいます。

以上二つの事業を大野ロータリークラブ創立40周年記念事業と致します。



創立10周年記念の集いを終えて

京都嵯峨野ロータリークラブ 幹事 田中 雅一

京都嵯峨野ロータリークラブは、スポンサークラブである京都洛西ロータリークラブの皆様による温かいご指導とご友情溢れるご支援によりまして、今年度創立10周年を無事迎えることが出来ました。

ロータリークラブとしましては、少人数のクラブとなってしまいましたが、会員一同一丸となって充実したロータリー活動が出来ているものと自負しております。

社会奉仕では、地域に密着した奉仕活動を心がけて参りましたが、国際奉仕活動に於きましては、ベトナムへの教育的援助活動、姉妹クラブのある台湾への国際ミッションなど手がけて参りました。

国際ロータリー第2650地区の主催される活動にも積極的な参加を心がけて参りましたが、特に今年度は、「カンボジア地雷除去支援」に対しまして、積極的な取り組みをすることが出来ました。

今年度は、京都市内の親睦ゴルフ大会の世話役をさせて頂きましたが、参加いただきました皆様にも、「カンボジア地雷除去支援」に対しましてご理解を戴きまして、ご寄付を頂戴することが出来ました。

戴きました寄付金は、京都嵯峨野ロータリークラブの10周年記念事業の一つである特別寄付と併せて国際ロータリー第2650地区へ寄付させて頂く事が出来ました。

また、もう一つの記念事業としましては、テリトリー内への奉仕活動としまして、事故等で尊い人命を助ける事の重要性から、普通救命講習のご指導を戴いています右京消防署と隣接します西京消防署に対しまして、応急手当普及用チャートを寄贈いたしました。

最後になりましたが、2002年10月30日の創立10周年記念例会に於きましては、ガバナーを始めパストカバナーの皆様、京都市内22ロータリークラブの会長幹事様、台北市南海ロータリークラブの皆様、京都洛西ロータリークラブの皆様など大変お忙しい中多数ご出席賜りましたこと紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

これからの京都嵯峨野ロータリークラブは、今年度のクラブテーマであります「心を結び さらなる一步を」のもと、よりよいクラブ運営と地域に密着した奉仕活動をし、さらに姉妹クラブとの共同事業などを通して、さらなる飛躍を目指して今後とも求められるロータリークラブでありたいと思っております。



クラブに慈愛の種を播きましょう 世界に慈愛の種を播きましょう ～これからのロータリーは如何にあるべきか～

I.M.実行委員長 久保 崇（五條RC）



本年度の第2650地区第4組のインターシティーミーティングは、平成14年10月19日（土）かしはら万葉ホールにおきまして、開催させて頂きました。

岡村吾郎ガバナーのご指示のもと、中野重宏ゼネラルリーダーのご指導により、簡素の中にも実のある充実した記念すべきIMにしたいとメンバー一同念じつつ実施させて頂きました。県下ロータリークラブ会長様はじめ会員各位様におかれましては大変なるご指導、ご協力を賜りましたこと心より御

礼申し上げる次第でございます。

第1部としてパネルディスカッション『クラブに慈愛の種を播きましょう』『世界に慈愛の種を播きましょう』のテーマのもと中野重宏ゼネラルリーダーのご指導、南野寛二ガバナー補佐にはコーディネーターをお願いしました。報告者には、地区会員増強退会防止委員会の小池恭弘委員長、地区世界奉仕委員会の前田正一郎委員長をお願い申し上げ、それぞれのテーマに沿いながら、意義ある報告をして頂きました。

第2部は、ポリオ撲滅キャンペーンの寸劇を、地区ポリオ撲滅募金活動キャンペーン委員会の松原六郎委員長のもと、委員会各位、また県下ロータリーアクトの若人の皆様方に出演して頂き、ポリオ撲滅の重要性について素晴らしいPRをして頂きました。

第三部は岡村吾郎ガバナーの指示により、県下各ロータリークラブでフォーラムが実施（テーマ『これからのロータリーはいかにあるべきか。大きな目を心を開いて』）され、その報告発表を、代表クラブにして頂きました。

奈良ロータリークラブ	八木 春樹 会長
大和高田ロータリークラブ	柴田 修 会長エレクト
橿原ロータリークラブ	谷川 豊彦 情報委員長

尚、各ロータリークラブよりご連絡頂戴致しましたフォーラムのご実施内容報告につきましては、IM実施報告書（来春2月完成予定）に掲載させて頂くことになっておりますので、今しばらくお待ち下さい。

アンケートも実施させて頂きました。これからのロータリーにつきまして、20年前の考え方と現在では、どのような違いがあるか、これもIM報告書に掲載致します。

第4部は懇親会で行われました。

県下ロータリークラブ会員皆様方に、ご満足していただきましたかどうか、少々心残りの箇所は有りましたけれど、最後までお残り頂き、和気藹々の雰囲気の中で、親交を深めてくださいましたこと、ホストをさせて頂きました五條ロータリークラブ会員一同、感謝の気持ちでいっぱいでございます。本当に種々ご協力下さいまして、有り難うございました。

最後になりましたが、次期ホストクラブは、平城京ロータリークラブとなりました。

平城京ロータリークラブには大変お世話になります。宜しくお願い致します。

文責：IM幹事 犬飼 正志

「青少年交換秋のエクスカーション」

地区国際青少年交換委員会 委員長 松山 隆

11月10日（日）の午前9時に受入の交換学生18名と地区委員を乗せてバスは名神高速道路を一路西に進路をとり出発した。天気は、曇り。スカッとした青空ではないが、学生達は、久しぶりに顔を合わせあるいは初めての顔合わせでうれしさ一杯です。最初、少しぎこちなかったが、瀬戸大橋の予島フィッシャーマンズワーフで昼食をとる時間にはすっかり打ち解けた様子でした。

瀬戸大橋を渡りきると、バスは琴平に向けて走ります。金毘羅さんの参道では、各自、杖を突きながら、楽しそうに急な階段も全く苦にならず談笑しながらの早足。本殿では、バスの中でガイドさんより教わった参拝の仕方、二礼二拍手一礼を早速経験しました。長い階段の後も全く疲れ知らず。奥の院まで到着後、全員無事参拝を済ませ麓のバスまで戻って来ました。今夜の宿は、瀬戸大橋が一望できる鷺羽山の「せとうち児島ホテル」です。夕食の後のカラオケ大会では、まだ日本に到着後2ヶ月半しかないのにたくさんの日本の歌を上手に歌っていました。さすが若いので覚えも早い・・・。



二日目は、山陽道を一直線に広島へ。バス中で、原爆の記録ビデオを流すと、それまでにぎやかだった学生の様子が、急に緊張に変わりました。昼食に、名物お好み村で広島焼きを味わい、商店街を通り抜け、徒歩で平和記念公園に入りました。原爆ドーム前で記念撮影後、南アフリカからの学生ニックが作ってきた千羽鶴を捧げました。記念博物館では、母国の言語で解説したテープを聞きながらゆっくり真剣な眼差しで見学しました。二日目の宿は、海の前で厳島神社の鳥居が遠方に見える「安芸グランドホテル」。広い大浴場の経験、全員浴衣での夕食会など普段は経験できない日本様子を堪能していました。

最終日の3日目は、早朝よりフェリーで宮島に渡りました。前の晩、話が弾みほとんど眠らなかった様子で朝食もとっていないとのこと。厳島神社では、宮司さんのご配慮で正式参拝を済まし、鳥居の前で記念撮影。引き潮の真っ最中で、鳥居のところまで歩いていきました。ホストへの土産の「もみじ饅頭」を買い込み、再度フェリーに乗り、帰途につきました。京都までのバス中、疲れも見せず話し合ったり、ビデオで映画を鑑賞したり、ゲームをしたりとあっという間に終着点の京都駅に到着。南半球からの4名の学生は次の1月には帰国してしまうので、会うのはこれが最後。最後の最後まで名残惜しくなかなか別れる踏ん切りがつかない様子でした。事故も無く紅葉のきれいなすばらしい旅行でした。



法川探偵団（法川の掃除と水辺の自然観察会）

福知山ロータリークラブ 宮垣 幸光



その源を京都・滋賀・福井の府県境になる三国岳に発し、日本海に注いでいる由良川水系の一つである福知山城の下を流れる法川において、昨年7月29日に「法川探偵団」を結成し、夏休み中の子供達と共に水辺の生物を観察したり、川の掃除をしました。

参加者は子供達や保護者、ロータリアンやアクターなど百名にのぼりました。外部から招いた専門の講師とロータリアンが協力して採取した水生生物や分別したごみについて説明をし、自然保護や環境保全の大切さを訴えました。また採取した生物について後日、植物、魚類、水生生物、昆虫に分けそれぞれ科名、和名、学名に分類表記し、わかりやすいカラー写真入りのリストを作成し参加の子供達に配布しました。

子供達は最初は恐るおそる川に入りましたが大きな鯉が捕れたり、珍しい虫を見つけて歓声を上げ、水に濡れるのも忘れて自然に親しみました。この様子は京都新聞がカラー写真で大きく取り上げたり、地元の両丹日々新聞にも載り、参加者はもちろんのこと大勢の人々に我々の活動が理解されたと思います。

また、ロータリーの友2001年11月号や英語版にも掲載され、全国からの問い合わせも相次ぎました。年度はじめの7月にこの計画を実施することができたのは、関係する環境保全・青少年・ローターアクト各委員会をはじめ福知山RACがそれぞれの立場で一致協力して推進したお陰です。

本年度、創立50周年を迎える福知山RCにとってガバナー賞をいただいたことは、新たな奉仕活動の励みとなり、確実に本年度へ引き継ぐことができました。



そして本年度は昨年の水をテーマにした事業を継続発展させ、由良川の清く豊かな水を育む森にスポットをあて、緑のダムとしての役割や二酸化炭素の吸収源である森林の重要性を知ってもらいたいという思いで、すでに8月3日に天田郡三和町の大原神社及び周辺里山において、福知山地方振興局、福知山市並びに三和町の両教育委員会の後援を得て、「うぶやの里探検隊」という環境保全プログラムを実施しました。

参加者は子供達を中心に昨年同様百名規模になり、午前中は府森林インストラクターの引率による森の自然観察会、午後は五感で自然を体験するネイチャーゲームというプログラムを実施しました。

プレゼントしたノートに真剣なまなざしでメモを取り、積極的に質問をしている子供達の心に自然を大切にしたいという気持ちがめばえたのではと実感しました。

新世代のための会議「オペラでつなぐ郷土と心」

長浜ロータリークラブ 鈴木 健市



と き：2002年1月26日（土）13：00～16：00

ところ：市民交流センター ふれあいホール（長浜市地福寺町）

当クラブが後援した2001年12月2日長浜市民会館で開催の、長浜少年少女合唱団「輝らりキッズ」の民話オペラ「湖北」公演を題材に、講演や参加者の声を聞くことにより、音楽を通じた青少年の健全育成と地域活動の必要性を認識し広める事業としました。また郷土に伝わる民話・伝説を再認識し、伝えることの重要性を実感することができました。

参加者すべてが、演出家 桂 直久先生（大阪音楽大学名誉教授・大阪西北ロータリークラブメンバー）の講演と本格的なオペラ「湖北」のビデオの鑑賞や、オペラに参加した子ども達、一人ひとりの感想を聞くことで、オペラを演じること、歌で美しいハーモニーを創り上げることが、子ども達の成長にとって素晴らしい影響を与えることと、音楽を通しての郷土の理解と、オペラで一つの舞台を作り上げる喜びを実感することができ、郷土を愛する青少年健全育成に結びつくものと確信いたしました。

また当日ビデオ等で紹介した長浜少年少女合唱団「輝らりキッズ」の「オペラ湖北」は、講師・参加者すべてからも絶賛されました。そこで、合唱団のオリジナル組曲『湖北』のCDとオペラ「湖北」のビデオを、当事業の報告書（参加者体験談）と合わせて、市内各幼・小・中学校や市立図書館・児童館・青少年センターにて『総合的な学習』等で活用いただけるように配布いたしました。

このような地域に根ざした様々な活動は、学校5日制のなかで青少年の健全育成に必要な地域活動として、今後も支援する必要があると考えます。

2650

地区

探訪

地区内の伝統的な「行事」や「芸能」「食」などに関する話題を
地元RCからお伝えします



祭りとともに伝わる食文化 「たですし」

野洲RC
松永 諭

「すし」と言えば、おそらく嫌いな人がないくらい日本人にとっては、人気のある食べ物です。ところが「たですし」は、全国的にはほとんど知られていないユニークなすしです。

野洲町三上の秋の「ずいき祭り」は（10月9日～14日県指定無形民俗文化財）有名な祭りですが、この祭りに神饌（＝神へのお供物）としてお供えされたり、或いは直会（＝宴会）に使われています。

主な材料は、蓼草たてで柳の葉に似ているところから、「やなぎたで」とも言いますが、川べりに自生している40～80cm位の一年草で、たで特有の辛味があります。古くは「四条流包丁書」にも登場する香辛料で、その辛さがすしの具としての美味しさを引き立てます。

子どもの頃は、川に入れると小魚



ずいき祭り

が浮き、小魚取りにもよく使われました。

土用の最中に刈取り、陰干しをして、手早くもみ、粉にして湿気を取らないように保管し、必要な時に取り出して使います。すしめしは普通のすし味と同じようにして、ちりめんじゃこを酢と砂糖に混ぜてなじませ、少しご飯が冷めた後、たでの粉

末を振りかけます。これでたですしの出来上がりです。

神社の祭礼では、当時の庶民、百姓も宮座も参加して祭りをつとめました。誰でも神饌をお供えすることができるように「ふなずし（今日では高級食品ですが昔は庶民の保存食）」「青菜漬（大根の間引菜の一夜漬け）」と「めずし（たですし）」が使われました。おそらく当時の庶民の生活の「知恵」ではなかったのでしょうか。

激しい世の中の移り変わりの中で、古くから伝わってきた食文化がどんどん失われつつあります。食べ物を通して、もっと歴史を見つめ直すことも大切だと思います。



たですし

地区伝承の芸能

火産霊神社 「馬鹿ばやし」

JR福井駅東口より出るとその地区は旭地区と呼ばれている。そして、その地区の社寺の一つに火産霊神社と言うお社がある。福井市民からは秋葉さんといって崇敬されている。勧請は福井藩祖、松平秀康公(1601年越前に移封)によると伝承されている。そのお社に伝わる芸能に「馬鹿ばやし」というのがある。神社縁起によれば、城之橋通り在住の大米屋多田善四郎なる人物がお面を奉納し、その面を付けてお囃子に合わせて踊ったのが始まりと言う。城之橋通りは現在、城之橋商店街となっており、神社の社頭にあって、その昔は門前町として発展し、福井の町から城の橋を出て、大野方面に向かう時、勝見村にさしかかるその間300米位の家並みが城之橋通りであり、その通りに面してあった大米屋、今で言う金融業をも営んで豪商

人としてわが町の活性化、氏神様祭禮の賑々しさを創り出すための工夫として創始し、それが今日に至っている。昭和37年県民俗無形文化財に指定された。

さて、その芸能であるが、往時には80面を数えた面も今では「べしみ」「ひよっとこ」「でめきん」と言われる面など37面が現存し、その面を付けてお囃子に合わせて大太鼓を打つ芸能である。「馬鹿ばやし」という語は辞書によれば「神社の祭禮の山車などで奏する囃子、里神楽から出たもので太鼓、笛、摺鉦を用いる」とあるが、まさしく同じ様態であって、予算の関係で山車使用は少なく、多くは舞台上で発表している。「馬鹿ばやし」のお囃子は、前半、後半のリズムがあり、前半はヒューラ、ヒューラの笛音のあと大太鼓が二つ打たれる。その繰り返しが緩やかに4、

福井東RC

林 英治



5回繰り返され、「攻めるぞ」の掛け声が入って、トコトン、トコトンとアップテンポの後半に移る。クライマックスは中央で面を付けた主役の大太鼓と脇に付く小太鼓、笛などの囃子との音のせめ合いとなって終了するのである。秋葉さんの「馬鹿ばやし」の特色は、面の持つキャラクターを役者が考えて、それを身振りで表現するところにある。例えば、「べしみ」の面を付けた役者は女性の恥じらう姿やしなやかさを表現しながら太鼓を打つといったことである。それゆえ面の種類も多くなるのである。所要時間はわずか1、2分で囃子も太鼓の打ち方も極めて簡単素朴であるが、しかしその表現される芸は複雑で奥深いものがある。

毎年5月24日、春の禮祭に境内にある神楽殿にて奉納されている。

以上、火産霊神社宮司杉坂滋様よりお話を伺い致しました。

是非一度ご鑑賞下さい。

